

**DOSHISHA
GLEE
CLUB
THE
70TH
ANNUAL
CONCERT**

同志社グリークラブ

第70回定期演奏会 *渡米記念*

1974年12月6日(金)
京都会館第1ホール

御挨拶

本日は御多忙の折、私達同志社グリークラブ第70回定期演奏会に御来場下さいましてありがとうございます。
ございます。

私達同志社グリークラブは創立以来70周年を迎え、春にはニューヨーク・ワシントンで行なわれました第四回世界大学合唱祭に参加し、秋には長井賞受賞という栄誉を受けることが出来ました。この間には幾多の困難もございましたが、私達はいつも真摯な気持で音楽芸術を追求し、歌い続けることが出来ました。これも皆様方の暖い御支援の賜物と深く感謝しております。

今宵の演奏が御来場の皆様方に何らかの感銘を与えることができましたら、私達にとってこれに勝る喜びはございません。

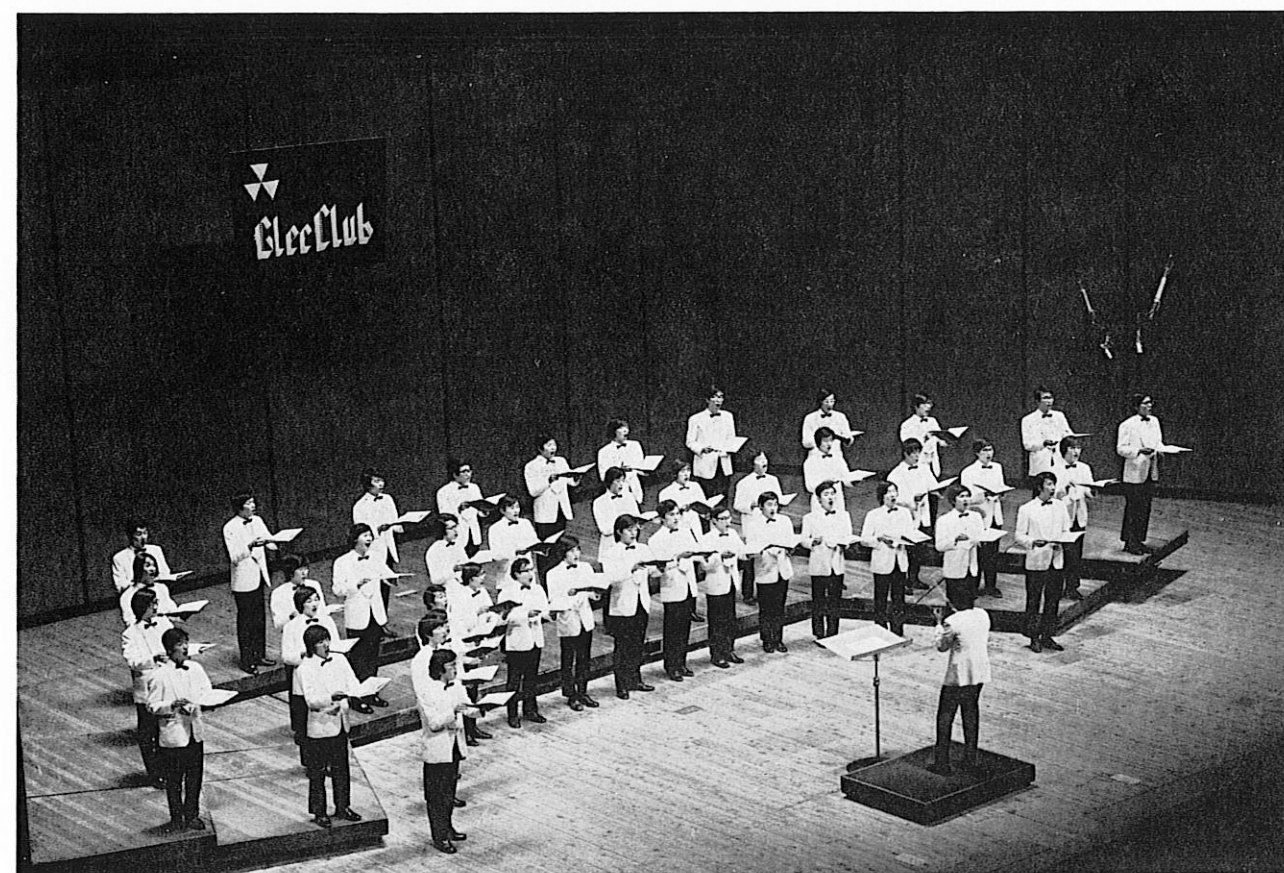
最後に、この演奏会に対して多大なる御協力、御支援をいただきました京都合唱連盟、ならびに関係各位の皆様方に、お礼を申し上げますと共に、今後の私達同志社グリークラブに御指導、御鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

同志社グリークラブ幹事長



DOSHISHA COLLEGE SONG

One purpose Doshisha, the name	Still broader than our land of birth
Doth signify one lofty aim.	We' ve learned the oneness of our earth
To train thy sons in heart and hand	Still hgher than self-love we find
To live for God and native land.	The love and service of man Kind
Dear Alma Mater sons of thine	Dear Alma Mlma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine;	Would strive to live the life devine.
Tho' thro' the world we wander far and wide.	That we may with increasing years hears have stood
Still in our heart thy procept shall abide.	For God, For Doshisha and Brotherhood



同志社大学長

松 山 義 則

1974年も余日僅かとなりました今宵、同志社グリークラブの第70回定期演奏会が開催されますことを、本当に嬉しく思い、心からお祝いの言葉を呈上する次第であります。

グリークラブは、本年創立70周年を迎えたのでありますが、同志社の歴史が99年であることを考えますと、その永い歴史と伝統の重みをつくづく感じさせられるのであります。グリークラブの紹介は、いまさら私が申すまでもありませんが、男声合唱団として音楽芸術、合唱技術の向上への努力はもちろん、部員相互間のメンタルハーモニーおよびカレッジライフの向上にも不断の精進を重ねているのであります。従って同志社にある多数の音楽団体の中でも、学内外に示した功績と栄誉は抜きん出たものがあるのみならず、日本の音楽界、合唱界に果たした貢献度もまた計りしれないものがあると考えます。

また、グリークラブはアメリカ・リンカーン・センターの招請により本年4月～5月にかけて、米国ニューヨークおよびワシントンで開催された第4回世界大学合唱祭に日本代表として参加する機会を得て、世界各国の合唱団との交歓は言うまでもなく、日本の音楽を紹介するとともに国際親善にも寄与するという画期的な功績を残したのであります。

このように、本学がまことに誇りとするグリークラブが本日の演奏会でどのような演奏ぶりをおとどけするかを、ご来場のみなさま方おひとりおひとりに十分吟味していただきたいと存じます。そして、その永い、不断の精進の中から会得したハーモニーがどのような響きをもって表現されているかを、かみしめてお聴きとりいただきたいと存じます。

同志社は明年、創立100周年の記念すべき年を迎えます。同志社とともに永い歴史をもつグリークラブが、同志社の将来の中でどのような目標を定めていくかを、私は興味深く、また大きな関心と期待をもって見つめていきたいと考えております。

どうか、ご来場のみなさま方におかれましても、本学と本学グリークラブの一層の発展のためご高批ならびにご支援を賜りますれば幸甚に存じます。

本夕の演奏会が有意義に、また盛況裡に終始しますことを願ってごあいさついたします。

同志社グリークラブ顧問

遠 藤 彰

今年の定期演奏会はことのほか意義深く嬉しいものとなった。一つには、本年でグリークラブは創立70年となることである。明治の末葉、片桐哲先生が一学生として音楽愛好の学友によびかけて讚美歌などを歌うサークルを作られたのが始まりであった。その後太平洋戦争のさなか、学内のもう一つの男声合唱団プリムローズ・クラブと合併して今日に至っているが、創立当初のキリスト教的精神性に根ざす精進の姿勢は少しも変わらない。

今日、片桐哲先生や平田甫先生など創立当時の大先輩がいぜん健在であられることは嬉しいことである。

第二のことは、去る4～5月ニューヨークとワシントンで開催された「第4回世界大学合唱祭」に日本代表として招かれ、最高の評価を与えられて帰国したことである。これはやはり一朝一夕には成らぬことであって、70年の伝統の力を抜きにして考えることはできない。姉妹校アーモスト大学を訪れたほか、エール、ハーヴァードなどの名門グリークラブをも訪問し交歓をなしたことも有意義であったし、船橋求己京都市長のメッセージを携して姉妹都市ボストンを表敬訪問したことも、両市の親善関係の推進に些かの役を果たしたわけで喜ばしいことであった。

第3に、10月には、新らしく設けられた「長井齊賞」がわれわれのグリークラブに授与されたことで、これは関西音楽界における最高の栄誉といわねばならない。

これら幾つかの喜びをこめて、こよい第70回定期演奏会を迎えたわけであるが、諸君がその充実した力をわれわれの前に十分にひれきしうるように期待したい。(同志社大学宗教部長)

関西合唱連盟会長

長 井 齊

もう何10年前のことになるのか、大阪土佐堀川畔にあるY M C A講堂で同志社グリーを聴いたのは、忘れもしないそれはアメリカのカレッジ・ソング風な“アンクル・サム・パーティー”と言うジュスチュア入りの軽快な曲だったが、パンジョーが鳴り、オルガンの和音がひびく、その見事なハーモニーに当時すっかり魅せられてしまった私でした。それが、私の長い合唱生活に一ヒントを投げかけた要因だったと回顧するのは。その頃有名になっていたクワルテット(平田甫、原忠雄氏ら)の伴奏者として満洲にまでついていった大申寅二君(東京霊南坂教会オルガニスト)から旅行中、風をひいた部員の代役で歌わされたと言う話も聞いた。又、声楽家として既に名をなしていたパンゼラ門下の太田黒養二君が中心となって宝塚コンクールに優勝したことや、後に同氏を独唱者に迎えて、私のやっていたコーラス(来年50周年)でパッサのクリスマス・オラトリオを演奏したことなど、みな同志社グリーを通してのなつかしい思い出の種ならざるはないのです。

そんなわけで、同志社には、また旧知の友も多いのです。先ずグリー育ての親、森本芳雄氏をはじめ、湯浅永年、山口俊隆、遠藤彰、中堀愛作の諸氏その他一々枚挙に遑もないほどです。おまけに同志社イーヴには前後2回も出たことがあるので、私が同志社出身のように思われたこともあったほどです。この度はしたなくも、関西合唱連盟の新らしく制定した“長井賞を私が同志社グリーに贈呈することになった”のも何か偶然ではないことのような思いがするのです。

さて、ここに同志社グリーがその第70回の記念定期演奏を開催するに至ったまでの過去或は現在を通観して見るのに、グリーがこの歴史的な、しかも豊かな歩みを経て得られたのは、勿論同志社と言う恵まれた学園の雰囲気や育まれたことに因るのは至極明瞭なのですが、復、京都市と言う学究的都市のさ中であって京大、立命、竜谷、大谷と言う大学合唱団との交友による環境の良さに加え、更に東西4連の迫力に鍛えられて今日をなしたことは、すでに疑うべくもない事実だと考えられるのです。今春アメリカの世界大学合唱祭への参加によって世界の同志社としての実力を磨き、ここにその成果を披露されるに到った事は、我が国合唱界の大いなる誇りとしてご来聴の諸賢と共にその栄誉を頌め讃えたく思うのです。

同志社グリークラブOB会々長

松 本 寛 二

校庭で出会った生徒がいきなり「先生おめでとう……」と言った。「何がおめでたいんだ、誕生日はとうにすんだぞ」と答えるとその生徒は「だって同志社のグリークラブが長井賞とったじゃない、先生はそのグリーのオンタイだもん……」と。私はびっくりした、すぐる11月3日の関西合唱コンクールの会場で同志社グリーが長井賞を受賞することもすでに知っていたし、翌日の新聞でもそのニュースを読んで喜んでいたのでそのいずれの時も“ただよかったなー”といった程度のものであったのだ、ところがこの一生徒の言うてくれた“オメデトウ”にはどうしてか自分のことのようなうれしさをひしひしと感じたのである。

長井賞は関西合唱界の指導者であり、同合唱連盟会長長井齊先生の功績を記念して昨年秋に新設、今後毎年、合唱界に貢献した関西地での個人または団体におくられることになったものだが、その第1回の栄誉が同志社グリーに授けられたのである。

この春米国で開かれた第4回世界大学合唱祭に日本代表として参加、すぐれた演奏で日本の合唱レベルの高さを示したのがこの受賞の大きな原因であることは言うまでもないのだが、それにしても世界大学合唱祭参加につづく長井賞受賞の栄誉は本当にうれしいことだ。

今宵の演奏会はこの二つの喜びをフルにかみしめながら米国で聞かせた名演奏をもう一度ご披露してくれるものと信じている。会場をうずめたお客さんの一人一人もきっと私と同じ気持ちでこの定期に大きな期待をかけていると思う、重なる喜びに心からおめでとうと叫ぶとともに今後の精進を期待したい。

長井賞本当におめでとう。

Doshisha College Song

作詩 W. M. Vories
作曲 Carl. Wilhelm

I 朔太郎の四つの詩

1. 五月の貴公子
2. 孤 独
3. 陽 春
4. 緑 色 の 笛

作詩 萩原朔太郎
作曲 清水 脩
編輯 福永陽一郎
指揮 大 島 功

II 在りし日の歌

1. 米 子
2. 早 春 の 風
3. 閑 寂
4. 骨
5. また来ん春

作詩 中 原 中 也
作曲 多 田 武 彦
指揮 福永陽一郎

III LIEDER EINS FAHRENDEN GESELLEN (さすらう若人の歌)

1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht (君がとつぐ日)
2. Ging heit'morgens übers Feld (露しげき朝の野辺に)
3. Ich hab' ein glühend Messer (灼熱せる短刀もて)
4. Die zwei blauen Augen (君が青きひとみ)

作詩・曲 Gustav Mahler
編曲 福永陽一郎
指揮 福永陽一郎
ピアノ伴奏 笠原 進

IV ミュージカル「南太平洋」より

1. Some Enchanted Evening
2. There is nothing like a dame
3. Yonnger than spring-time
4. dites-moi'
5. Happy talk
6. Bari-Hai

作詩 Oscar Hammarstein II
作曲 Richard Rogers
編曲 福永陽一郎
指揮 大 島 功
ピアノ伴奏 福永陽一郎

V NEGRO SPIRITUALS

1. JERRY
2. SOMETUMES I FEEL
3. Didn't My Lord Deliver Daniel
4. My Lord, What a Mornin'
5. In That Great Gettin' Up Mornin'

編曲 Leonad de Paur
" Alice Parker
" Fenno Heath
指揮 福永陽一郎

「朔太郎の四つの詩」

大 島 功

「近代日本に天成の詩人があるか、近代日本に純粹と稱し得る詩人があるか、近代日本に性情そのものに根ざす詩人らしい尖説の詩人があるか」と人にきかれたら、即座に萩原朔太郎があると答えよう。この詩人ほど存在そのものが既に詩であった人は少なく、またこの詩人ほど俗念に遠く、俗事にうとく、詩の本質とその表現とに生涯を埋めた人はなく、またこの詩人ほど生理的にまで言葉そのものの命を把握し、その作用を鋭く裏の裏まで自家のものとした人はない。この詩人の詩は蒼く深く、またすさまじく美しく、日本語の能力を誰も予期しなかったほど大きくした。第一詩集『月に吠えを』は詩の革命であった。

言葉そのものに詩が具像化する第一の道は近代日本に於てはこの詩集によって拓かれた。萩原朔太郎の詩について見なければならぬことは、俗説化したところの「感傷性過多」でもなく、また意匠としての新しさや、愛覚や神経の特異性というような単なる表層的なものでもなく、彼の詩が、作者内奥の実存的生命の全的発現にはかならないということ、それによってはじめて、この詩人が、近代詩史上ほとんど比類を絶して、「言葉そのもののいのちを把握し、その作用を鋭く裏の裏まで自家のものとした」ということである。そこでは用語として口語を用いたかどうかというより、むしろ作者のことばに対する触愛と、これを支える作者の詩意識こそが、画期的だったのだ。

「音律を主眼とし、情景するのが詩だ」と朔太郎はいうが、彼におけるリズムは、単に外圧的なことばの音のトロノーム的形式としてではなく、あくまで内発的感情、生命の流露としてとらえられた。彼は、五七調七五調など定形音数律ふうのいわゆる「調子本位の詩」と、真の音楽的な詩とをはっきり区別し、「詩が真に自覚した光ある芸術となったのは、調子本位を捨ててリズム本位にうつって以来である、即ち自由詩形が唱導されて以来」のことだ、としている。彼のいうリズムは、ことばの音そのものがむろん基本をなすにせよ、それだけでなく、ことばのもつイメージなり意味なりを含めた語感そのものの複合的なリズムを指し、さらにそれと一体化してその底に流れる感情、生命のリズムを、指しているのだ。

また、彼は「感傷」とか「感情」とかの語を偏愛し、詩論においてしばしば「抒情」をとなえ、「実感」ということを強調したが、そういう名目だけで単純に朔太郎を抒情詩人、実感主義者と見なしてはならない。その「抒情」なり「実感」なりが、どのようなものとしてあったかということこそ、重要であろう。その抒情はつねに彼の深い生の意識と結びついており、またその「実感」表出の方法は反自然主義的であって、幻想幻想による魂のリアリズムともいうべき、仮構のイメージの造型に、その特質があった。

この曲は1960年12月畑中良輔指揮の慶応ワグネルソサィエティによって初演された。そして2年後、東海メールクワイヤーの依頼で、「緑色の笛」を作曲されたのを機会に、4曲をもって組となった。

朔太郎の四つの詩

作詞 萩原朔太郎

I 五月の貴公子

若草の上をあるいてゐるとき
わたしの靴は白い足あとをのこしてゆく
ほそいすてっきの銀が草でみがかれ
まるめてぬいだ手ぶくろが宙でおどって居る
ああすっぱりといっさいの憂愁をなげだして
わたしは柔和の羊になりたい
しっとりとした貴女のくびに手をかけて
あたらしいあやめおしろいのにほひをかいで居たい
若くさの上をあるいてゐるとき
わたしは五月の貴公子である。

II 孤 独

田舎の白っぽい道ばたで
つかれた馬のところが
ひからびた日向の草をみつめてゐる
ななめに しのしのとほそくもえる
ふるへるさびしい草をみつめる。

田舎のさびしい日向に立って
おまへはなにを視てゐるのか
ふるへる わたしの孤独のたましひよ。

このほこりっぽい風景の顔に
うすく涙がながれてゐる。

III 陽 春

ああ 春は遠くからけぶって来る
ぼっくりふくらんだ柳の芽のしたに
やさしくちびるをさしよせ
をとめのくちづけを吸ひこみたさに
春は遠くからごむ輪のくるまに乗って来る
ぼんやりした景色のなかで
白いくるまやさんの足はいそげども
ゆくゆく車輪がさかささまはり
しだいに棍棒が地面をはなれ出し
おまけにお客さまの腰がへんにふらふらとして
これではとてもあぶなさうなど
とんでもない時に春がまっしろの欠伸をする。

IV 緑 色 の 笛

この黄昏の野原のなかを
耳のながい象たちがぞろりぞろりと歩いてゐる。
黄色い夕日が風にゆらいで
あちこちに帽子のやうな草っぱがひらひらする。
さびしいですか お嬢さん、
ここに小さな笛があって その音色は澄んだ緑です。
やさしく歌口をお吹きなさい
とうめいなる空にふるへて
あなたの膺気楼をよびよせなさい
思慕のはるかな海の方から
ひとつの幻像がしだいにちかづいてくるやうだ。
それはくびのない猫のやうで 墓場の草影にふらふらする
いっそんな悲しい暮景の中で 私は死んでしまいたいです。
お嬢さん、

「南太平洋」と「在りし日の歌」

田 村 康 浩

(38年卒)

……あゝあの曲ねえ、「南太平洋」やったら私らもうたわしてもらいました。こまかいことはおぼえてしまへんけど。……そやねえ、……あの曲では忘れられんことがあった。35年の夏の演奏旅行のときや。盛岡でのコンサートの幕が降りてカラになった舞台で、伴奏してはった天野さん。あそや今年、広島の崇徳高校のグリークラブを指揮して全日本のコンクールに出はった天野さんや。あの天野さんが当時セカンドのパート・リーダーで、ピアノも達者に弾かはったから、グリーの伴奏はみなしてはったんや。その天野さんがピアノに突っ伏して泣いてはって、泣くいうても号泣や。グリーメンはみなストームしにおもてへ出てしもとってな。私はそのとき2年生の駆け出し、やっとのこと演奏旅行に連れてもろたばかりのペーペーや。何のことかわからへん、通りがかりに見てビックリしただけやっただけど、その時もう一人、舞台のスキのところで副指揮者の浅井さんが、からだ固うして立ってはってな、泣いてる天野さんに声をかけられへん、凍った人みたいにじっとしてはって、私はなんやその浅井さんの姿がいつまでも強う心に残ってな。

いや、私らそのあと、きつう音程しほられて、次までになんとかするのやいうてね。その盛岡での「南太平洋」は始めからしまいで声が浮いてしもうて、ピアノと半音ずれたまてまなおらんまま終ったんや。私ら下級生はものすごい大失敗やぐらいにしか思わへんかったけど、天野さん、からだふるわして声を殺して泣かはって。黙って見てはった浅井さん、何か心に深く思うことがあったんやろか。同志社グリーも行きづまってしもて、もう学生だけでいくらやってもどうにもならへん。それで秋になって、交替して正指揮者にならはって、大決意で東京から技術顧問に陽ちゃん先生、招ばはって。「南太平洋」いうたら、私ら、うとうた思い出より、そんな変なことばかり頭に出てきますなあ。「南太平洋」はその年、第9回の四連の同志社の曲目で、私らセレクトで切られて会場におったら、「同志社のあいだ、そとへ出ておしゃべりでもしてよか」いうて出ていく奴らがあって、腹立つよりポカンとして、何でやるおもてた。……そうかあ、あの曲、今年、アメリカ帰りの手みやげ気分でグリーがうとうてくれはるて、今度は楽しいやろな。

「在りし日の歌」は次の第10回四連のレパートリーや。はじめて上野の東京文化会館の舞台に乗れるいうて、なつかしい曲やなあ。この曲うたういうことは、春の演奏旅行の前からきまっとったやけど、いくらやっても音程とれへんでね。浅井さん、おこらはるし、陽ちゃん先生が技術顧問にならはって最初の四連やし。いや当時は先生は四連は指揮しはられへんことに決っとった。四連は関西側は学生の指揮でやるんやいうて、誰か主張ははって……。あの年の6月はすごいこと本番が続いて続いて、17、18日が東京で「四連」やる、24日が京都で「同立交歓」で、7月1日が定期演奏会や。それで7月9日がハーヴェード・グリークラブの京都演奏会でグリーが賛助出演やる。「在りし日の歌」は「四連」と定期でうとうて、ついに音のとれへんまやったとこ、あったなあ。東京で多田さんききに来はって「またこん春」のソロがよかった、いうて。同志社もようやと関学と同じとこまで上ってきたね、いわはってね。……その年の合唱コンクール、審査員やった多田さんは同志社に1位入れてくれはったけど、関学に負けてね。陽ちゃん先生かて口惜しがって、こんな、同志社より関学のほうがうまいというような答えを出す関西の合唱界は亡びるいうて雑誌に書かはって、いまま変らへん、陽ちゃん先生、昔からそんなお人やったし。

「在りし日の歌」いうたら、多田さんが東コラのために作曲しはって陽ちゃん先生が初演を振らはった曲やら、浅井さんのときから同志社グリー、あの曲うとうてへんと思うけど、コンクールで落とされた同志社。今年、第1回の「長井斎賞」をもらった同志社グリー。「南太平洋」や「在りし日の歌」が、その長い年月、一段一段、あがったときあり、転げ落ちたときありの長い長い階段。その階段の長さのハカリになってくれるんやろか。浅井さん、どないな気持ちで、今年のグリーの演奏会、きかはるのやろか。
(筆名、内容、文体ともフィクションです)

在りし日の歌

作詩 中原中也

歩道に沿って立っていた
雨あがりの午後 ポプラのように
かほそい声をもう一度 聞いてみたいと
思うのだ……

II 早春の風

きょう一日また金の風
大きい風には銀の鈴
きょう一日また金の風
女王の冠さながらに
卓の前には腰を掛け
かびろき窓にむかいます
外吹く風は金の風
大きい風には銀の鈴
きょう一日また金の風
枯草の音のかなしくて
煙は空に身をすさび
日影たのしく身を煽ぶ
鶯色の土かおるれば

物干竿は空に往き
登る坂道なごめども
青き女の顎かと
岡に梢のとげとげし
きょう一日また金の風……

III 閑 寂

なんにも訪うことのない
私の心は閑寂だ
それは日曜日の渡り廊下
——みんなは野原へ行っちゃった
板は冷たい光沢を持ち
小鳥は庭で啼いている
締めのたりない水道の
蛇口の滴は つと光り
土はばら色 空には雲雀
空はきれいな四月です
なんにも訪うことのない
私の心は閑寂だ

(IV骨、Vまた来ん春の歌詩は紙面の都合上別紙へ続きます。)

さすらう若人の歌

福 永 陽 一 郎

いま、全世界的に評価の高まっているグスタフ・マーラーの作品のうち、「さすらう若人の歌」は、彼のごく初期に書いたものであり、青春の絶望をうたった傑作として有名な歌曲集である。マーラーという人は“絶望の音楽家”と呼ばれ、晩年には世紀末的な人生そのものへの絶望にまで進んでいった人だが、若書きのこの曲では、まだ、初恋に破れて絶望し人をうらみ、やがてようやく立ち直るといふ、若き日の甘さのこもった痛みの表現となっている。

芸術的な香りの高い歌曲で、大学生くらいの年齢の青年たちが共感をもってうたうことができるもの。男声合唱用の新編曲でアイデアをねっていた私が、絶好のものとして思いついたのがこの「さすらう若人の歌」で、このことを思いついた時に、これは歌曲の編曲ものとして、私のつくるものうち、もっとも重要なものになるだろうという予感があったほど、望みどおりの楽曲であった。(うまく演奏できた場合、うたった大学生諸君は涙を禁じ得ないという。共感の大きさのためであろう。)

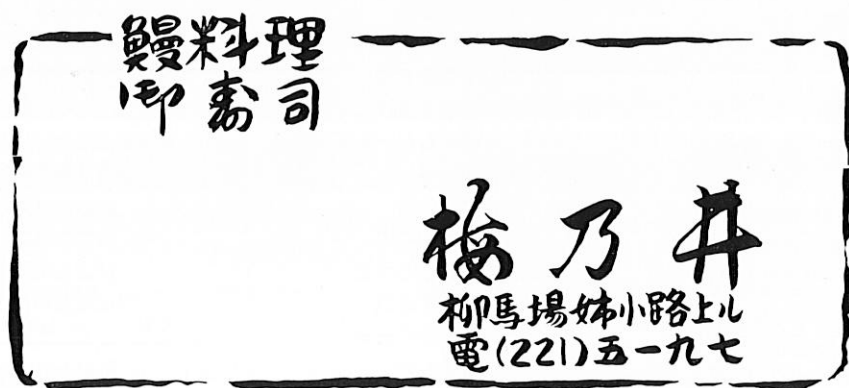
私は、編曲している間中、この曲の初演者として、畑中良輔氏と慶応ワグネルを想定していた。ワグネルは当時も最良の大学男声合唱団だったし、畑中氏は、私のドイツ・リートへの目を開けてくれた人だからである。ところが出来あがって楽譜を献呈したのに、畑中氏はいっこうに取りあげてくれない。結局のところ、初演は私の指揮で、早稲田のコール・フリーゲルによってなされた。いまから10年前のことになる。

それから数年のうちに畑中氏とワグネルもやったはずである。というのは1969年の第2回リンカーン・センター国際フェスティバルでワグネルがこれをうたっているからである。(そのときの交歓の結果、プリンストンとデンヴァーの大学グリーがこの編曲をうたったという話である。)

畑中氏の指揮で関学グリーもうたっており、私の指揮では西南学院のグリーがやった。楽譜はかなりひろく流れているようで、北海道大学でも東北大学でもうたわれたらしい。

同志社グリーで私がやるのは二度目である。一度目は知る人ぞ知る“うらみの東京演奏会”のときで、演奏は成功ではなかった。その年の定期演奏会は無かったから、地元の京都では同志社グリーは一度もこの曲をうたっていない。いま70周年をむかえて、人数こそ多くはないが最良の状態にある同志社グリーで、私としても、自分のベストをだしてみたい。(偶然だが、畑中良輔氏と慶応ワグネルも今年、この歌を再演することとなった。)

「断絶」という言葉が、使い古されていまだに使われている。親子の断絶、家族の断絶、教師と学生の断絶、三年生と二年生の断絶。そのうきぎない、しかし今すぐそのあないのソバにある人間関係、それを瞬時に美しく溶解してしまおう魔法の言葉があるとすればそれは「青春」で、その「青春のうた」がこのマーラーの「さすらう若人の歌」であるといえないだろうか。だから、いま、ヨーロッパのロマンティズムと緑の遠い日本のジューパン大学生が、この歌を涙を流してうたうのである。



さすらう若人の歌

作詩 グスタフ・マーラー

1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht

Wenn mein Schatz Hochzeit macht,
Hab ich meinen traurigen Tag!
Geh ich in mein Kämmerlein, dunkles Kämmerlein!
Weine! Wein! um meinen Schatz, um meinen lieben Schatz!

Blümlein blau! Verborre nicht!
Vöglein süß! Du singst auf grüner Heide!
Ach! Wie ist die Welt so schön! Ziküth!

Singet nicht, erblühet nicht! Lenz ist ja vorbei!
Alles Singen ist nun aus!
Des Abends, wenn ich schlafen geh,
Denk ich an mein Leid, an mein Leide!

2. Ging heut'morgens übers Feld

Ging heut morgens übers Feld,
Tau noch auf den Gräsern hing;
Sprach zu mir der lustge Fink:
„Ei, du! Gelt? Guten Morgen! Ei gelt? Du!
Wird's nicht eine schöne Welt? schöne Welt!?
Zink! Zink! schön und fling!
Wie mir doch die Welt gefällt! “

Auch die Glockenblum am Feld
Hat mir lustig, guter kling
Mit dem Glöckcken kling, kling,
Ihren Morgengruß geschellt:
„Wird's nicht einee schöne Welt? schöne Welt?
Kling! Kling! Schönes Ding!
Wiü mir doch die Welt gefällt? Hei-a! “

Und da fing im Sonnenschein
Gleich die Welt zu funkeln an;
Alles, alles, Ton und Farbe gewann im Sonnenschein!
Blum und Vogel, groß und klein!
Guten Tag, guten Tag! Ist's nicht eine schöne Welt?
Ei du? Gelt? Schöne Welt!?

Nun fängt auch mein Glück wohl an?!

Nein! Nein! Das ich mein, mir nimmer blühen kann!

3. Ich hab' ein glühend Messer

Ich hab ein glühend Messer, ein Meseer in meiner Brust.
O weh! o weh!
Da schneid so tief in jede Ereud und Jede Lust, so tief!

Ach, was ist das für böser Gast!
Nimmer hält er Ruh, nimmer hält er Rast,
Nicht bei Tag, noch bei Nacht, wenn ich schlieff!
O weh! o weh!

Wenn ich in den Himmel seh,
Seh ich zwei blaue Augen stehn!
O weh! o weh!
Wenn ich im gelben Felde geh,
Seh ich von fern das blonde Haar in Winde wehn!
O weh! o weh!

Wenn ich aus dem Traum auffahr und höre
Klingen ihr silbern Lachen,
O weh! o weh!
Ich wollt, ich läg auf der schwarzen Bahr,
Könnt nimmer die Augen aufmachen!

4. Die zwei blauen Augen

Die zwei blauen Augen von meinem Schatz,
Die haben mich in die weite Welt geschickt.
Da muß ich Abschied nehmen vom allerliebsten Platz!
O Augen, blau! Warum habt ihr mich angeblickt?
Nun heb ich ewig Leid und Grämen!

Ich bin ausgegangen in stiller Nacht,
In stiller Nacht wohl über die dunkle Heide.
Hat mir niemand ade gesagt, ade!
Mein Gesell war Lieb und Leide!

Auf der Straße stand ein Lindenbaum,
Da heab ich zum erstenmal im Schlaf geruht!

Unter dem Lindenbaum, der hat seine Blüten
über mich geschneit, da wußt ich nicht,
Wie das Leben tut, war alles, ach alles wieder gut!
Alles! Alles! Lied und Lied!
und Welt und Traum!

南 太 平 洋

作詞 Orca Hammarstein II

Some Enchanted Evening 「魅惑の宵」エミールのネリーに対する恋心を歌った曲でこの作品最大のヒット曲。

There is nothing like adame 海兵隊のコーラスで歌われる愉快な歌。

Younger than sdring-time ケーブル中尉が島の娘リアットへの愛の告白の歌。

“Ditesmoi” エミールの幼ない娘ウンガナが歌うフランス語の歌。

Happy talk リアットの母ブラディ・メリーガニトを祝福して歌う可愛らしい曲。

Bali-Hai 島の女ブラディ・メリーが若いケーブル中尉に近くの島のことを物語る幻惑的な歌。

(Isao Obatake)

黒人霊歌集

福永陽一郎

今回うたわれる黒人霊歌は3人の有名合唱指揮者の編曲であるが、この3人とも、同志社グリークラブがこの春、アメリカでじかに会って親しくなった人たちである。

1曲目 Jerry の編曲者はレオナード・デ・ボア氏である。デ・ボア氏は、戦争が終ったもう20何年も昔、日本に第1次の合唱熱が燃えあがっていた頃、彼の「うたう連隊」というのをつれて来日し、日本の合唱運動に大きな刺激を与えた人である。デ・ボア氏は、リンカーン・センターのフェスティバルでは最初からアシスタント・ディレクターをつとめておられ、今度も実に親切にすべてに心を配ってくれた。もう、かなりの年に見え、いつもパイプを口から離さなかったが、機敏に仕事を片づけていっていた。私は、旧知の中であつたし、手紙のやりとりをしていたので、会えたときは実に嬉しかった。いつか、黒人霊歌を自分で指揮するために日本に来ませんかとさそうと、「エニ・タイム、エニ・タイム」と心から嬉しそうだった。何とか招待したいものだ。オールド・ファンならみんな大歓迎するだろう。

ミネソタ州の北の方、州立大学の分校のあるモーリスは、同志社グリーがサンフランシスコの次に訪問したキャンパスである。日本でいえば、北海道のオビヒロという感じになるかな。そのモーリスで、その大学の合唱団と器楽アンサンブルに、来るべきコンサートのために熱心に練習をつけていた女性の指揮者がアリス・パーカー女史であった。パーカー女史については、ロバート・ショウのよき共同者として以前から日本でもあまねく名のとった人である。その人の練習だということで見学を許可してもらった。男まさりの実に根気のよい指導者という印象だった。

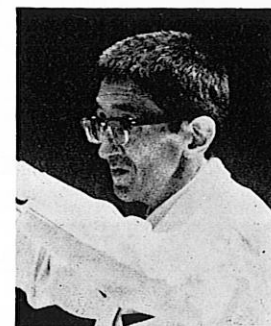
夜になって、われわれのコンサートの聴衆の一人としてあらわれたパーカー女子は、まっ白のパンタロンもあてやかな品のよい美しい婦人で、これが昼間のあのオッカナイおばはんか、とみんな眼を見はったものだ。

ニューヨークでは、ファイナル・コンサートに来場してくれ、終了後のシャンパン・パーティで終始おそくまで「この日本の合唱団とは前からの友だちなよ」と嬉しそうに言い、同志社グリーのそばから離れなかった。「断然、今夜のベストよ」と自分のことのように喜んでくれた顔はみんな記憶しているはずである。数多いパーカー女史の編曲の中から今夜うたうのは Sometime I feel で、この曲はリヴァー・フォールズのウイスコンシン大学の合唱団が我々を歓迎してうたってくれた忘れがたい名演だったものと同1曲である。

残りの3曲は、フェノ・ヒースの編曲である。フェノは伝統ある高名なエール大学グリークラブ——残念なことに今は混声合唱団である——の指揮者で、エールのグリークラブが1965年に世界演奏旅行で日本へ来たとき、勿論、指揮者として同行していたから、同志社グリーとはクラブ同志、旧知の仲である。私はなぜか、どうしても理由を思い出せないのだが、京都で会わずに東京で会っている。

ニュー・ヘヴンのキャンパスで会ったフェノは少し疲れているようだった。精力的に我々のために動いてくれたが、なんだか一人で全部やっているみたいだった。学生は試験期だったのである。古いけれど広い練習所のついたクラブのビルで、フェノはまた大きなオフィスを持っていた。このアメリカ合唱界の第一人者が、世話をやいて走りまわってくれるのが気の毒だった。彼は、われわれの他にいくつもの団体を、このフェスティバルの期間中、キャンパスに迎えたはずである。事実、同志社グリーの乗せたバスがクラブのビルの前を離れた十分後にスウェーデンの連中のバスが到着したという話だ。来るという話だったが、フェノはとうとうニューヨークのフェスティバルに顔を出さなかった。

エールでの同志社グリーのコンサートは、今度の旅行中の最高の出来で、いまテープできいても信じられないくらいだが、フェノの奥さんが感激して涙を流して讃めてくれたのが強く印象に残った。会のあと酒井団長と笠原さんと一緒にフェノ夫妻と乾杯したのだが、フェノは疲れていたためだろう、ひととおりの話しかしなかったが、夫人のほうはとめどなく、いかにも徹夜で語り明したい風情でわれわれを引きとめ、いつまでも感激の言葉をつづけるのだった。



技術顧問 福永陽一郎

1962年 神戸に生れる。東京音楽学校（現芸大）本科ピアノ科出身、1951年藤原歌劇団に入団、ピアニスト、副指揮者、合唱指揮者として経験を積む。1956年～65年藤原歌劇団常任指揮者として活躍、同団の第三次渡米公演に同行。アメリカ、カナダの主要都市での公演を指揮した。1959年、61年、63年、71年イタリアオペラ来日公演には副指揮者、合唱指揮者として参加。歌劇指揮者として、レパートリーは50数種のオペラを持ち、日本屈指のベテランである。

合唱音楽に関して経験が深く、合唱界第一人者の一人である。1952年、畑中良輔氏と共に、東京コラリアーズを創立、日本最高のプロ男声合唱団に育てた。アマチュアコーラスに対する理解と情熱も過去二十年間、断絶することなく持続され、客演指揮、合唱講習会の講師、コンクールの審査員として、全日本的に活躍。又、合唱用の編曲作品は数百曲に及ぶ。

本日は同志社グリークラブの70周年の定期演奏会に、ようこそお越し下さいました。嬉しく存じております。

今日まで私が、同志社グリーと共に歩いてまいりました道、のぼり下りました坂について、自分の口からとかく申し立てたことはありません。しかし、「同志社グリーと私」という関係が20年を越しました今日、いささかの感慨を禁じ得ない私でもあります。

20年前、昭和29年の同志社グリーのフェアウェル・コンサートのプログラムに「今度卒業される人々が私に示され親愛の情と、共に持つことができた素晴らしい思い出のかずかずを思うとき、本当にいい時に知ったものだと思います。」と書いております。昭和28年の第2回の四大学の会で、私は合同合唱の指揮をして、初めて同志社グリーと知り合ったのでした。

そのフェアウェル・コンサートで、グリーは寺本和希さんの指揮で、安田二郎作詞福永陽一郎作曲「冬の森」というのをうたっており、それが、同志社グリーが私の書いたものをうたったそもその初め、同志社グリーのプログラムに福永陽一郎の名前が印刷された最初でした。

グリーは、第56回の定期演奏会では私の編曲した「子供の四季」という組曲をうたっております。昭和35年で、それまでの6年間、同志社グリーは日本の大学合唱団の中で、私の編曲をもっとも多くうたった合唱団でした。つまりごく親しい友人だったと言えましょうか。その年度のフェアウェル・コンサートのステージで、私がグリーの技術顧問に就任したことが紹介されました。

第57回の定演のプログラムで、私は「京都が日本に誇る一流合唱団である同志社グリークラブが、今までも増して満足すべきすぐれた音楽をうたい出すために私がお手伝いをいたすことになりました。その最初の定期演奏会が本日なのであります。長く学生指揮者による演奏を伝統としてきた関西の大学合唱の中で、同志社グリーが先頭を切って指導者を専門家に求めた、その決断と勇氣に敬意を表します。」といささか固くなって書いております。昭和36年のことです。

昭和39年に同志社グリークラブの創立60周年がやってまいります。この記念の定期演奏会は、大阪毎日ホール、京都公会館第1ホール、神戸国際会館、東京文化会館大ホールという四都市で持たれるという最大規模の催しでありました。そのプログラムで私は「この4年間、私の同志社グリーに対する情熱は、すべて60周年に賭けられてきたと言っても過言ではない。嬉しかったことも悲しかったことも、すべてが60周年のための試行錯誤だったように思える。60周年の晴れの日に私が夢みた同志社グリーの美しい勇姿。アポロでありディオニソスである同志社グリークラブの音楽。来場のみなさんの前に、いま、君たちのために帯が上る！」——。このたかぶりはいささか異常です。たしかにあの時の同志社グリーは人数も多かったし（プログラムには141名の名が印刷されています）、発声技術も上々でした。そして、同じ文章の中で私は「今日の高らかな凱歌は、同志社グリーのものであると同時に、私にとっても一生にいく度許されるかも知れない。めったにない勝鬨でもある。今夜のステージでグリーが創り出す音楽によって私は人生の華を味わう。」とも書いてあります。この有頂点ぶりの危険さに私自身が気がついておりませんでした。いやたしかに、あのときの東京演奏会のテープは私の自慢のコレクションで、いまでも若い学生諸君は「理想の大学合唱」としてこの60周年の同志社グリーの演奏をしばしば聞かされる、それくらいの立派な合唱はしたのですが。

それから、落ちるところまで落ちた同志社グリーと悪口を言われる日が来ました。私が病床にいた3年間もありました。そうして今むかえる70周年です。私にはあの盛大だった60周年の「恐怖の思い出」があります。「何でもなく通り過ぎようね、70周年は。」と自分に言いかけ言いかけ、今日を迎えました。

私がかう申しますことを不愉快に感じられる方もおられるでしょう。また、学生のクラブ活動としてそうあってはならないというのが正論でもありましょう。しかし、20年以上を共に歩いて参りまして、同志社グリークラブはいまや私の個人的な気持ちの中で、「オレのグリークラブ」でもあります。

「本夕、御来場の皆様に、技術顧問として、ようこそ心からのごあいさつをお送り申し上げます。」と私は昭和36年の定期演奏会のプログラムに書きました。本日も同じことを申し上げます。同志社グリークラブの技術顧問として、本夕御来場の皆様に、心からのごあいさつをお送り申し上げます。

ローランサン本店

本店

AM 9:00 ~ PM 5:00
月曜・木曜定休（予約制）

五条支店

AM 9:00 ~ PM 6:00
火曜定休（自由制）

ローランサン 京都市左京区川端二条下ル 771-2456・751-1955 ローランサン五条支店 361-8093



ヴォイストレーナー 大久保昭男

昭和28年東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業。矢田部勁吉氏に師事。近衛秀磨指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕筰作曲、本人指揮のオペラ「黒船」、ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」等にも出演。昭和34年にドイツ・リート、日本歌曲によって、第一回リサイタルを開く。現在、演奏に、大学合唱の発声指導に広く活躍され、東西四大学合唱演奏会では、そのうち三大学が先生の発声法を習っている。

美しい大きな音楽の時

私は数多くの大学、高校、そして一般の合唱団の指導をしている。私もたまには歌うが、此頃はもっぱら私の教えた沢山の人達に歌ってもらって、ある時は喜び、またある時はがっかりしたりもする。私のいつも思っている音楽を、思っている声で歌ってくれる様に自分に出来る限りの努力をして指導に当たっている。この仕事は大変忍耐の要る仕事ではあるが、私のまいた種が大きく育ち、満開に花を咲かせてくれる時こそ何にも増して非常に大きな喜びを感じさせてくれる。そしてまたより一層の思いが湧き出して、次から次と毎日が全く新しい時となり、積み重ねの練習を始め、また続けるのである。

私が同志社グリークラブの声を教えに来てもう確か10年以上にはなるだろう。音楽をする人なら誰もがそうである様に、その時、その時、が毎回新しいより高いものへの挑戦であり、何年、何10年続けていようが決して惰性というようなことは生れて来ないのである。昔の苦しみの殆んどを忘れ、その時々「美しい大きな音楽の時」をいつもつい先日の出来ごとの様に思っている我々である。

第1回から去年の第69回と今夜の70回目の定期演奏会、そのどの1回をとってみても、音楽を愛する者たちの心の声が生き生きと響きわたっていたことと私は信じる。

同志社グリークラブ第70回定期演奏会を迎えられ、心からおめでとうと申し上げよう。



ピアノ伴奏 笠原 進

昭和38年 大阪学芸大学特設音楽課程ピアノ科卒業
39年 大阪学芸大学専攻科修了
43年 アメリカ・ノースウェスタン大学音楽院修士課程修了
44年 リサイタル (毎日国際サロン)

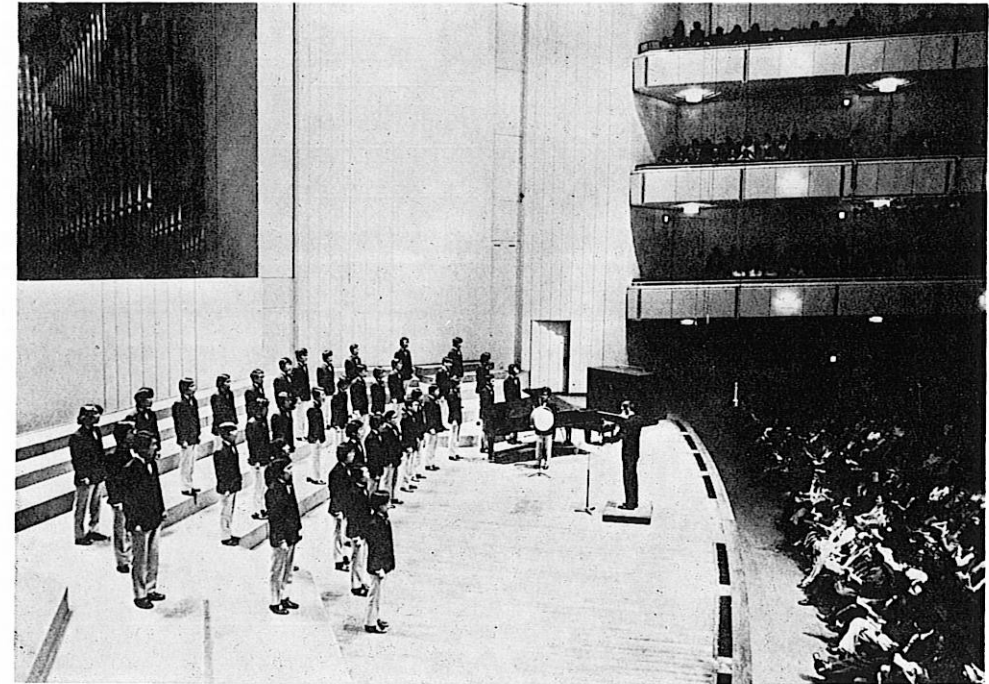
現在 大阪楽友協会ピアノグループメンバーとして、本年度はブラームス、フォーレ等の作品を積極的に発表。また同志社女子大学音楽科専任講師として指導にあたられる。

関西音楽界では独奏者としては勿論、数少ない本格的な独唱、合唱伴奏者として不動の地位を築かれ、福永陽一郎・畑中良輔・北村協一諸先生から、貴重な合唱伴奏ピアニストと賞賛されております。



第43代学生指揮者 大 畠 功 1952~74歿?

大阪に生まれ、同志社大学法学部に籍をおき、グリー学を専攻。福永ゼミ、大久保ゼミに登録。ソリストを志したが、人材のとぼしくなった折、指揮法を学ぶことを強制され転向。1年間副指揮者をつとめ、その間岡山、下関その他に演奏旅行をおこない、中国地方に迷声を博した。74年第43代学生指揮者の地位につき、一般合唱団の指揮者を兼任。関西合唱コンクールではAグループで2位を獲得し、また関西六連の名演によって一躍注目されるようになった。特に曲中の激しい盛り上りの処理や、日本人好みの表情の強調と、流麗な指揮ぶりによって聴衆をひきつけ、女性の人気を一人占めしている。



Lincoln Center For The Performing Arts, Inc.

To the Doshisha University Glee Club:

It is an honor and a pleasure for Lincoln Center to salute this superb chorus-which so ably represented Japan in the Fourth Lincoln Center International Choral Festival this year-upon the occasion of your 70th Anniversary Concert. We are especially pleased to know that this occasion will also commemorate your visit to the United States.

During our Festival, the men of Doshisha impressed everyone they met and sang for with their musicianship and their fine human qualities, with the result that Doshisha and Japan now have many new friends all over the world.

Happy Anniversary to your past and present singers and conductors and to your University, and all good wishes for the future!

James R. Bjerge, Director Lincoln Center International Choral Festival

Yale Glee Club

In remembrance of happy times together both in Kyoto and New Haven it gives the members of the Yale Glee Club great pleasure to send warm greetings to all of their friends in the Doshisha Glee Club on the occasion of the Seventieth Anniversary Concert. May your beautiful singing go on for at least another seventy years.

Director, Yale Glee Club

Wayne State University Men's Glee Club

To the Members of the Doshisha University Glee Club:

May I extend my congratulations to you on the event of your 70th Annual Concert in which you are also remembering your American Tour of last spring. The members of the Wayne State University Men's Glee Club join with me in thanking you for visiting us and presenting such a fine concert here in Detroit last April. Your visit to our campus was the highlight of the year for us. The Doshisha University Glee Club is an outstanding musical organization in every respect. We hope that you will return to our campus sometime in the future, and also that we may be able to visit you in Japan within the next couple of years.

Please accept our heartiest congratulations and best wishes for many more years of beautiful singing. We of the Wayne State University Men's Glee Club are proud to be considered your brother Glee Club in the United States.

Sincerely yours,

Dr. Harry M. Langsford, Conductor and Men of the Wayne State University Men's Glee Club

慶應義塾ワグネルソサイエティ男声合唱団

第70回定期演奏会おめでとうございます。今年は70周年の記念すべき演奏会であるとの事、又春には渡米され、世界大学合唱祭に日本代表として、その重責を無事果たされた事など、昨今の貴グリークラブのすばらしい活躍を私達合唱の仲間として、又東西四連のメンバーとして頼もしく思っております。私達ワグネルも来年は75周年・第100回の定期演奏会を迎えることとなり、大いに意欲を燃やしております。今後も、お互いにこのような長い伝統に流されることなく、共により良い音楽を目指して歩めればと思います。最後になりましたが、今宵の演奏会のご成功をお祈り致します。

早稲田大学グリークラブ

第70回定期演奏会おめでとう。一口に70年といっても様々な困難に会いながら、それらを一つ一つ乗り越えて行って現在の同志社グリークラブが成立しているのだと思います。その良き伝統の上に立ち、今年は世界大学合唱祭参加という重責を果たし、又一回り大きく成長した様に思え、四連の盟友として大変頼もしく感じます。今宵の演奏会が素晴らしい秋の一夜となるようお祈り致します。同志社グリークラブに栄光あれ！

関西学院グリークラブ

第10回定期演奏会おめでとうございます。今宵、同志社グリークラブが日頃の厳しい練習の成果を発表されることは同じく男声合唱を愛する私達にとって本当に心強い限りです。リンカーンセンター主催の世界大学合唱祭参加、第1回長井賞受賞と今年の同志社グリークラブの活動には衆人の目を見張らせるものがあると思っておりますが、それらの意欲的な活動に対し心から拍手を送る次第です。昔から世間では同志社、関学の両グリークラブを宿名のライバルと評しておりますが、ライバル関係を超越した同胞意識を私達関学グリーメンは“同ヤン”に感じている次第です。近年、男声合唱の低調が指摘されていますが、今宵の同志社グリークラブの定期演奏会がそういう風潮を吹き飛ばすような素晴らしい演奏会となりますよう期待してやみません。定期演奏会の御成功を祝し、今後の御活躍を、お祈り申し上げます。

立命館大学メンネルコール

同志社グリークラブが、本日ここに第70回定期演奏会を開催されますことを部員一同心からお慶び申し上げます。同じ京都にあり、同じ男声合唱に携さわっている我々は、同志社グリークラブの数々の華々しい活躍に刺激を受け、そのすばらしく華麗な演奏に魅了され続けてまいりました。しかし、我々はそれらが日ごろの厳しい練習の積み重ねによって支えられていることを知っております。それだからこそ、我々は今宵ステージの上でスポットライトを浴びる同志社のグリーメンたちを、そしてその演奏を、期待と興奮をもって静かに見つめつつ、聞きたいと思っております。これからの同志社グリークラブの輝やかなしい発展を願いますと共に今宵の演奏会の大成功を祈ってやみません。来春4月の同立交歓演奏会を心待ちにしている立命館大学メンネルコールより。

関西大学グリークラブ

第70回定期演奏会おめでとうございます。昨年、渡米を前にした定演での「オデコのこいつ」をはじめとする力演が今も耳の内でも共鳴して残っているようです。その帰路、カッコした頭を賀茂川から流れてくる冷風にさらし、同志社グリー存在を強く感じたのを思い出します。同志社グリーのステージの魅力は、一口に言えば、各個の創造性のぶつかり合いから生ずる“熱”にあると思います。彼らの演奏は「音楽の品位は、その質にあるのであって量の大小にかかわらない」という常識の力強い提示でもあります。同じ合唱を愛する者にとって、それは大いに刺激的であります。本年度、新しく関西六大学合唱連盟が確立され、各団の創造性のぶつかり合い場が出来ました。ここで増幅された個の創造性が構築する今宵の演奏会は、昨年以上素晴らしいものになることでしょう。その成果が、今回の六連で聴ける事を楽しみにして祝辞といたします。

大阪大学男声合唱団

第70回定期演奏会おめでとうございます。一口に70年といっても、それは昭和は勿論、大正も飛び越え、古くなりにける明治までも遡らねばならない位の長い年月である。戦後の歴史しかもたない我が阪大男声には、そこに想像も出来ぬ歴史の積み重ね、伝統の重みを感じる事が出来る。クラブ員がクラブにいるのは、わずか4年余り。にもかかわらず、同志社グリーにはカミノリの様な鋭い響きと、大ナタの様な重厚なハーモニーがいつもある。それは単に練習量や方法乗り越えた伝統という一つの大きな母体の咲かせる華麗な花かもしれない。今年は創立70周年、春には第4回世界大学合唱祭出演のため、渡米し過去の関学、慶応、早大に優るとも劣らぬ熱演で他を圧倒してきたと聞きます。まさしく学問と芸術の地京都に根ざす同志社グリーの實力と底力を見た様に思います。秋にはその長年の功績が認められ、第1回長井賞受賞と我々にはうらやましい限りです。今後とも益々の御発展をお祈り致します。

甲南大学グリークラブ

第70回定期演奏会おめでとうございます。関西六大学の盟友として、また全国の男声合唱団の一員として、心よりお祝い申し上げます。長い伝統の一つのくぎりがついたことよりも、これからの新たなる前進への一つのステップとして、意義深い演奏会だと思っております。この転変の激しい世に在って、すばらしい意味での一つの個性を押し通す同志社グリーの動向は、本年度の訪米を例にあげるまでもなく、常に合唱界の注目するところであり、我々甲南グリーにも教えられる事多大なるものがあります。この将来へ同志社グリー一つの進む道は決して平易なものではなく、おそらく数々の難関に行きあたる事でしょう。けれど団員諸君の若い情熱は、必らずしやそれらを克服すると信じております。なにしろグリークラブの活動程しんどいものはありませんから。学問はおろそかに成りがちだし、彼女とのデートの暇もない生活。嗚呼それでもグリークラブバンザイ。GO! GO! DOSHISHA!!

名 譽 顧 問	片 桐 哲	幹 事 長	村 上 利 行	文 連 常 任	岡 地 尚 弘
顧 問	遠 藤 彰	内 政	小 林 郁 夫	メサイア実行	山 口 篤
技 術 顧 問	福 永 陽 一 郎	外 政	河 村 淳	”	小 林 克 良
ヴォイス・	大 久 保 昭 男	”	高 田 正	”	山 本 英 司
トレーナー		サブ	栢 岡 哲		
		”	高 谷 博 次	指 揮 者	大 島 功
		会 計	田 村 和 男	副 指 揮 者	山 口 正
		サブ	井 上 誠	パートリーダー	
		ス テ ー ジ	山 下 裕 司	Top	小 林 茂
		サブ	井 口 仁	Second	村 上 一 夫
		演 奏 旅 行	田 野 耕 樹	Bariton	池 田 周 一
		O.B. 担 当	八 束 基 義	Bass	山 内 規 生

Top Tenor

松 村 俊 明	(法・法律4)	洛 東 高
吉 川 博	(文・社会4)	茨 木 高
大 島 功	(法・法律4)	同志社香里高
田 野 耕 樹	(商・3)	広 島 城 北 高
小 林 克 良	(商・3)	渋 川 高
井 上 誠	(経・3)	邑 久 高
山 口 正	(工・化工3)	同志社香里高
伏 村 淳 二	(文・英文3)	夕 陽 ケ 丘 高
井 口 仁	(文・文化2)	静 岡 東 高
小 林 茂	(経・2)	同 志 社 高
山 本 英 司	(経・2)	彦 根 東 高
荒 川 匠 平	(商・1)	同 志 社 高
池 田 雅 次	(法・法律1)	豊 中 高
松 本 悌 次	(法・政治1)	同 志 社 香 里 高
仲 達 喜 有	(商・1)	総 社 高
徳 山 康 彦	(文・文化1)	春 日 丘 高

Second Tenor

瑞 慶 村 啓	(経・4)	都 立 深 沢 高
大 崎 保 則	(商・4)	伊 勢 高
村 上 一 夫	(商・3)	小 豆 島 高
村 上 利 行	(経・3)	阿 倍 野 高
山 口 篤	(商・3)	栃 木 高
小 林 郁 夫	(経・3)	新 潟 学 園 高
稲 垣 昌 裕	(文・文化2)	同 志 社 香 里 高
栢 岡 哲	(経・2)	福 岡 城 南 高

八 束 基 義	(文・社会2)	洛 東 高
神 吉 正 三	(法・法律1)	竜 野 高
森 島 敏 夫	(法・法律1)	八 日 市 高
二 瓶 敏 宏	(商・1)	福 島 商

Bariton

小 糸 徹	(商・4)	広 大 附 属 福 山 高
池 田 周 一	(法・法律4)	同 志 社 香 里 高
田 村 和 男	(法・法律3)	下 関 西 高
高 田 正	(文・英文3)	東 山 高
高 谷 博 次	(商・2)	鳴 尾 高
山 下 裕 司	(経・2)	同 志 社 香 里 高
寺 沢 健 一	(工・電気1)	三 島 高
金 森 久 宙	(商・1)	四 日 市 高
林 宏 之	(経・1)	同 志 社 香 里 高

Bass

今 藤 東 証	(法・法律4)	彦 根 東 高
平 瀬 芳 雄	(経・4)	山 崎 高
林 修	(経・4)	総 社 高
河 村 淳	(商・3)	下 関 西 高
山 内 規 生	(文・社会3)	同 志 社 香 里 高
加 畑 宏	(工・電子3)	同 志 社 香 里 高
有 本 圭 市	(文・英文2)	大 阪 府 立 盲 学 校
岡 地 尚 弘	(文・英文2)	桜 塚 高
岡 田 正 美	(経・2)	甲 賀 高
松 本 潤 一 郎	(法・政治1)	同 志 社 香 里 高
稲 熊 裕 之	(文・文化1)	名 古 屋 西 高

Top Tenor



Bariton



Second Tenor



Bass



● Top Tenor

松村俊明

昭和26年師走、京都洛北に生まれ育つ。昭和46年春グリー入部。当初より衆人の注目を浴び、将来を大いに期待さる。そして今や4回生、期待に違わず見事名テナーに成長。グリーの中心的存在といっても過言ではない。

吉川博

酔いどれ船に乗って旅に出たい。己の過去を眺めつつ……。しかし今過去となる頁が開かれようとしている。素晴らしい過去が。

大島功

僕「カラヤンがなんだ！小沢征爾？大した事ない。福永陽一郎がどないやいうねん。」A「みんなプロの指揮者やで。」僕「それがどうした。俺を見てみィ！」B「おまえなんや？」僕「……許して。もう今年で終りやし。」

田野耕樹

赤茶色に醗く充血した目の道化者よ！その汚れ果てた目で見たものを話すのをやめよ。安心を安売りする事はないのだ。目を閉じて歌えば良い。そうすれば誰も気付きはしないだろう。

お前の目の哀しさに。

私の名刺です

▽同志社大学商学部
同志社グリークラブ・1st Tenor
小林克良
(帰省地) 群馬県吾妻郡吾妻町松谷3845

伏村淳二

モルゲン・ロートに輝く峰々。ピトロの響き。風にそよぐウスキリウ。そういうものにも、音楽に通じる所があったんだなと最近思っているのです。

山口正

真面目に最後迄歌い通した1年時代。思うがままにブレスをした2年時代。こういう時代を経て今私は他人のブレスを気にしながら曲の真最中に充分の休息を取り入れる技を手中にしたのです。(これはナイショ!!)

井上誠

今宵は全てを忘れて歌を歌う。でも今私の心にあるものは、唯マーラーの心と貴女への思慕があるのみかもしれない。

山本英司

「今にみると心はしきりにつぶやくのだが、その“今”がなかなかやっこないのです。」わかります杜夫さんその気持。でもナンセンス！

井口仁

卵6個、小麦粉2カップ、砂糖大さじ5杯、バター大さじ6杯、牛乳1カップ、オレンジジュース1.5カップをよくかきまぜフライパンで薄く焼きます。焼きましたらジャム、ハチミツ等をぬり、まるめます。それを適当に切っておめしり下さい。飲みものはざらめを入れた紅茶が最高です。

小林茂

今日も気力と根性で血のふきでるような練習がすんだのです。トップテナーはなぜこんなに高い声ばかりださなくてはならないのですか。たまにはセカンドのように簡単に声ばかりの曲を歌いたい。たまにはいいよね。たまには……

池田雅次

グリー入部以来8カ月今では大学生活の中心。歌はへたな僕だけれど先輩達の中に入って歌っているだけでとっても満足とっても幸福。きれいにハモったりと思わず口元がほころんでしまうのです。

徳山康彦

「ミーマテやごらんよ」「ミューマア」「日本人だろあんた」「ミューマテ」「違うのミーマテ！」「ミューマア」「発声、だめだねえ」 — Part Leader より —

仲達喜有

脆弱な体から出る。その未熟な発声ですが、その歌の心を伝えるロマンチストの私です。

松本悌次

華麗なるテニスによって鍛えられた足腰からほとばしる美声はこの上ないドラマを引きだします。

荒川匠平

グリーに入ってから8カ月、単純な生活の中でグリーの音楽はいつも僕に新鮮な刺激を与えてくれます。

● Second Tenor

大崎保則

何の因果が報いたか、遂にグリー生活も4年経った。この4年間、酒は一滴も飲まず、タバコは1本も吸わず、女などには目もくれず、パチンコ・マージャン一切やらずに歌って来た。しかし本望です。

瑞慶村啓一

怪かじり学生の創る音楽、なんの感動あろうかと思いつつも、唱わずにいられぬこのカラダ。今宵も恥も外聞もサウナラ、蜜声、ツバキをまき散らして、下宿に帰って、ソット溜

息洩らそじゃないか。

山口篤

「僕の恋人が結婚する時、僕にとっては悲しい日なのだ……僕の伴侶は愛と悩みだった……」こんなマーラーの失恋の歌を私は歌う。今の私に過ぎた日々の愚かな恋を回想する余裕などない。ステージの上でピエロの役を演じる自信もない。私に要るものはだらしのない緊張でもなく、光り輝くステージでもない。私にはただ……いや君には分っているはずだ。

村上一夫

声は僕の宝物、だからいつも大切にとってあるのです。今日は皆さんのお耳までそっとお届けします。

村上利行

人には美しいものへの憧れがある。私にとって美しいものとは貴女と、そして今夜私自身が作り出そうとしているものに他ならない。

小林郁夫

現在グリーには3人の“小林たち”がおり、その1人が通称“郁夫ちゃん”の私である。そう呼ばれるのは幼稚園以来久々の事であるが、何故グリーメン達が私をそう呼ぶのであろう？顔が童顔だからかな？それとも……?!

八束基義

2回目の定演、去年今頃は何を考えていたかな。寒い冬に皆な京都館なんかに来て暇やな。ステージに立ってるのはもっと暇人間かな。

栢岡哲

遠い過去の悪夢の様に私の脳裏を横切るもの。お前は一体何だ。今ひとときだけ、私に安息の時をくれ。今このひとときだけを……。

稲垣昌裕

希望を持って生きることが人生であっても、愛するものをなくすということはいかに悲しいものか、また来ん春と言われても、春がきたって何になると、答える中での心を歌うとき、私は涙なしに歌うことはできない。

森島敏夫

週3日の練習もいつのまにか毎日になってしまいました。大島功はあくまでも鬼のような指揮者。でもまだまだこれから寒くなります。おからだ気をつけて。(霜月の或る手紙より)

二瓶敏宏

若草の上を歩いている時、28才のその処女が“Guten Morgen”と声をかけた。しかし私はつらいのだ。ダニエル、ダニエル！

神吉正三

いつもブレスが悪いと言われて、本当にどうしようもないと思っている1年生。

● Bariton

小糸 徹

愚利井倶楽子様、今日は私にとって最後の定演です。あなたは何時も厳しい眼で見つめていましたね。私にはわかるのです。曲の終りのあなたの視線が……。今日は太陽の如く生命を燃えたぎらします。みていて下さい。

池田 周一

故郷・今、僕にとって4つ目の故郷が生まれつつある。故郷とは時と共に懐かしさばかりが増すもののである。しかしいつまでも浸っていたい故郷、我がグリークラブ。

高田 正

私の心は……閑寂……だ、ネェ君!

田村 和男

嗚呼……。私が友と一緒にステージに立てないとは。これほどの苦しみ私に課せられるとは。神を恨みます。しかし私も一緒に歌っているのです。たとえ客席にしようとも。

高谷 博次

マーラーの詩は幼い。しかしそれ故に私には尚更心に浸みてるのです。今宵の涙は一体誰のための涙なのか……。

山下 裕司

ぼんやりと鴨川を見ている。流れに身をまかせて下っていくはっぱ。絶対流れまいと思っている石ころ。俺はどっちだろう。まあいいやそんなこと。

金森 久宙

夕映えに一人たたずみ、沈みゆく夕陽を言葉なく見つめる時私の目には、何故か涙が……。ああ、何処かに夕陽を愛する乙女はいないものだろうか……。グリーと夕陽と、そして貴女。これが私のすべてなのだ。

林 宏之

浪速に生れてこのかた19年。Bariton 最年少の私です。今夏の合宿では夜の主役を演じたのでありますが、歌の方の主役はいつになることやら……。

寺沢 健一

グリーに入っちはや8カ月、日に日に男声合唱のもつ魅力に引かれていく僕、でも僕の発するこの美声?は、ああなんと……いいことか。

● Bass

今藤 恵証

美しき汝は去り行きて、如何とも為し難き悩みに心を乱る。されど夢は叶わぬ愛追い求め、そが醒めし時の空しさは……。嗚呼、絶望と後悔の日々。夕星に向い落涙為すも答無く、運命の

いたずらを一人呪いて、あてもなく彷徨いぬ。

平瀬 芳雄

ある日、私はF・ディスカウが歌う「さすらう若人の歌」のレコードを買いに某店を訪れたが、何を思ったか躊躇もせず、別のレコードを買った。それ以来毎朝コーヒーを飲みながら、そのレコードを聞いている私なのです。あべ静江を聞きながら……。

林 修

私にとって最後の第Iホールのステージです。しっかりと目に焼き付けて京都を離れます。又皆さんとの再会を楽しみにしています。

河村 淳

“愛とは奪うものである”と人は言うが……。

加畑 宏

なにを隠そう、グリーきっての美男子とは誰あろう私なのです。どうかステージ向かって右端に御注意を。

山内 規生

GLEE練習目というただそれだけでテレビを見る事ができなかったあの日。長嶋茂雄現役引退の日。でも悔やんではない。録画を見ただけでも目には熱いものが……。僕は彼のエラーと三振が好きだった。

岡田 正美

今、とっても寂しいんだ。でもピコ(自称)には音楽という高価な恋人がいるから。たとえ孤独であろうと、それだけ音楽に執着することができれば幸せである。俺、もっと孤独になろう。そして……。

岡地 尚弘

私がグリーに入っていなかったらと想像すると、思わず寒気がする毎日です。

有本 布圭

さあこんどはどんなよそ行きの声で歌おうかな?皆はどんな声を出すのだろう。楽しみだ。きっと気品あふれる演奏会になると思う。僕は音の世界に生きているからそれが良く分かるんだ。

稲能 裕之

音楽を語るに言葉はいらない。同じように僕という人間を語るのにも言葉はいらないのです。今宵の演奏会のひとときをあなたとともにすることが出来るならば。

松本 潤一郎

しかしなんとまあバカの多いこと。ホラホラあの顔、ありゃどう見てもバカだね。でもバカでなきゃ4年間は無理かな。ぼくもはやバカになろう(もうなってるよ)なりたてのグリーバカです。よろしく。



年間スケジュール表

'73・12・10	第69回定期演奏会(京・I)	6・16	東西四連(大阪フェスティバルホール)
12・14	広島メサイア(広島市公会堂)	6・17	東西四連(京・I)
12・16	神戸女学院メサイア(西宮市民会館)	7・3	名古屋演奏会(名古屋市民会館中ホール)
12・25	同志社メサイア(京・I)	9・10~15	夏季合宿(信州・野尻湖)
'74・3・2	第69回卒業生の為のフェアウェルパーティー(ツーリスト・グリル)	10・9	淡交会(京・II)
3・11~16	渡米強化合宿(滋賀県青年の城)	10・11	A. B. C公開放送出演(A. B. Cホール)
3・20・21	卒業式参列(栄光館)	11・1	関西六連(大阪厚生年金・大)
3・30	渡米壮行演奏会(京・II)	11・7	日野高校演奏会
4・1	A. B. Cラジオ公開録音出演(大阪厚生年金・大)	12・6	第70回定期演奏会(京・I)
4・5・6	入学参列(栄光館)	12・14	広島メサイア(広島市公会堂)
4・10	A. B. Cプラスα出演	12・25	全同志社メサイア(京・I)
4・7	第4回世界大学合唱祭参加の為渡米	'75・2・13	第70回卒業生の為のフェアウェル・コンサート(京・II)
5・16	帰国		
5・24	大阪教会100周年記念演奏会		
5・26	第11回京都合唱祭(京・I)		

お知らせ

同志社グリークラブ第70回卒業生のための

送別演奏会

1975年2月13日(木) 6:30 P.M. 京都会館第2ホール(入場無料)

充実した時間を

COFFEE HOUSE
NOW

京・烏丸今出川上る
一筋目西入

味のハモニー

1F 柳月 2F 名曲音楽喫茶

柳月堂

TEL (781) 5161~4 TEL (781) 5165
京都・叡電出町柳駅前

欧風料理

宴会・クラス会 ￥800 コースより

レストラン 六甲

烏丸通上立売上る西側
TEL 432 - 1427

贈答に最適

名菓の花
名菓
洋風和菓子

菓匠水園

本店・京都三条平安神宮道南
電話 (075) 541-1131
西店・京都三条平安神宮道西南角
電話 (075) 771-1369
販売店・京都駅観光デパート・高島屋・大丸
フジダイマル・丸物・近商ストア
新幹線売店・京都国際ホテル
ホテルフジタ

アサヒビール・和・洋酒類

株式会社 小田佐商店

京都市中京区木屋町通三条下ル
TEL (221) 0074

慶弔花・稽古花・花束・ブケー・コサージュ・生花一式

花 フ ジ

京都市上京区今出川通寺町西入
TEL 京都 231 - 0870

SERVICE IS OUR BUSINESS

京・下京区・七本松七条上ル
Phone 313-7395

澤田自動車整備工場

工芸・喫茶

わびすけ

京都市上京区烏丸今出川上ル
TEL 451 - 6349
京都駅前タワーデパート2階 (工芸)

十二園茶

祇園花見小路

西湖堂印刷株式会社

男のマルチファッション

ジョウ・ワイツ

<5階>

DAIMARU
SHIJO KYOTO Tel. 211-8111